

私たちは高齢難聴者の

補聴器購入補助を求めます

70才を過ぎたころから耳が聞こえづらくなりました。テレビの音が大きいとか、すぐ後ろに車が来ているのに気づかなかったとか、日常会話がスムーズにできないとか…。まさに加齢に伴う難聴ですね。



加齢性難聴は治りません。補聴器をつけるしかありません。その補聴器は安くて10万円、高いと100万円もします。年金生活の私たちには簡単に手に入りません。しかし放っておくと「うつ状態」や「認知症」になります。

そこで私たちはフレイル（心身機能の弱化）予防に力を入れている柏市に対して、高齢難聴者に目を向けるよう要請してきました。それによりヒアリング・ループの活用が広がり、聞こえの良さに驚きの声が寄せられています。

そして今、私たちは柏市に対して次のことを求めています。

1. 高齢難聴者の補聴器購入補助を！
2. 特定健診に「聴力検査」を！
3. 高齢難聴者の相談窓口を！

日本での公的補助の対象は70デシベル以上の難聴者（障害者）に限られています。全国各地で40～70デシベルの中等度の難聴者を対象にした公的補助を求める声の広がり、独自の補助制度を持つ自治体も増えています。

柏市でも高齢難聴者が自ら声を上げ、運動を広げて、補聴器購入補助を実現させましょう。そしていきいきと社会参加する高齢者を増やしましょう。

社会保障推進柏市協議会・難聴者が元気になる会

連絡先：佐藤智弘 090-5447-3074

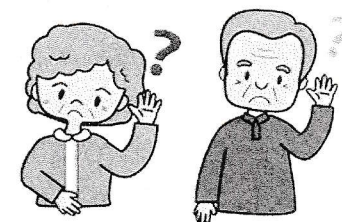
難聴の放置が認知症の原因に

2017年に開かれたランセット国際委員会が「認知症の9つのリスク要因のうち難聴は最大の危険因子である」と発表しました。アメリカ等の大規模な調査研究を通じて難聴が認知機能の低下や脳の萎縮を招くことが証明されました。最近では、聴覚とその他の認知処理（視覚など）のバランスの崩れの研究も進んできています。

認知症は発症原因も治療法も解明されていませんが、難聴の進行を遅らせることで認知症を予防できると呼びかけたのでした。

また、難聴が脳の萎縮を招くと同時に、周りの人とのコミュニケーションが減り、社会的に孤立した状態となってうつ状態や認知症を呼び込むことにもなっていくのです。

認知症にならないために、自分の耳の聞こえをチェックし、早めに耳鼻科の専門医の診察を受けることをお勧めします。



聞こえのチェックをしてみよう

(日本補聴器工業会)

	項目	チェック
1	会話をしているときに聞き返すことがよくある。	
2	後ろから呼びかけられると気づかないことがある。	
3	聞き間違いが多い。	
4	見えない所からの車の接近に全く気づかないことがある。	
5	話し声が大きいと言われる。	
6	集会や会議など数人の会話でうまく聞き取れない。	
7	電子レンジのチンという音やドアのチャイムの音が聞こえにくい。	
8	相手の言ったことを推測で判断することがある。	
9	騒音の多い職場や大きくうるさい音のする場所で過ごすことが多い。	
10	家族にテレビやラジオの音量が大きいといわれたことがある。	

- ・0～2個：現状は問題ないと思われませんが、定期的に耳の検査をうけましょう。
- ・3～4個：一度、耳鼻科の専門医に相談してみてもいいでしょうか。
- ・5個以上：出来るだけ早く耳鼻科の専門医の診察を受けることをお勧めします。

ヒアリング・ループの活用

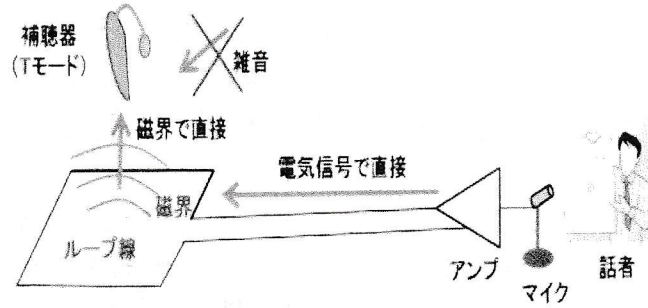
柏市の公共施設では、磁気ループを使用したヒアリング・ループを利用できます。ヒアリング・ループはループ線を埋設している施設で利用することや、移動式(携帯用)の機器を借りて近隣センターなどで利用することも出来ます。とてもよく聞こえるので、みんなびっくり。

【設置している施設】

- ① 中央公民館 5F 講堂 (全席)
- ② アミュゼ柏 会議室B (30 席)
クリスタルホール (57 席)
- ③ 市議会傍聴は要請に応じて対応
補聴器を貸してくれる

【移動式機器の借入れ申込み】

- ① 中央公民館 3F 受付
- ② 柏市障害福祉課の窓口



補聴器購入に公的補助のある自治体

全国 114 市区町村で補聴器購入補助制度があります。東京都では 23 区中 15 区で実施し、平均 2 万~3.5 万円の補助です。港区では対象が 60 才以上、所得制限なしで補助額の上限が 13.7 万円です。千葉県では浦安市、船橋市、印西市ですではじめられており、今年、鎌ヶ谷市が加わりました。

海外との比較

わが国の補聴器所有率は欧米と比較すると極端に低いことがわかります (右の表)。

これは下表のとおり、公的補助のないことが大きな要因であるばかりではなく、「聴力 70 デシベル以上の人 (障害者) でなければ助成しない」というわが国の「難聴」のとらえ方にも理由があります。

難聴の人の補聴器所有率

イギリス	47.6%
フランス	41.0%
ドイツ	36.9%
アメリカ	30.2%
日本	14.4%

聴器購入における公的補助の状況(japantrak2018)

国名	デンマーク	ノルウェー	ドイツ	スイス	フランス	イタリア	アメリカ	日本
公的補助	100%	100%	約 10 万円	約 9 万円	約 14,000 円	約 7 万円	ほぼ 100% 自己負担	ほぼ 100% 自己負担

難聴者の声

難聴、「耳が聞こえない」とは



「耳が聞こえない」って、「聞こえる」人には、ちょっと想像が難しいと思います。

手すりを握って階段を下る人、また、杖や松葉杖、白杖、また、車椅子などは、普通に「目にして」、「あ、大変そう」と感じたりしますが、人が「耳の聞こえない、難聴」というのは、目でわかりません。住民相手の自治体職員でも、介護職場なら幾分わかるかもしれませんが、難聴者にとってはわかってもらうにはなかなか大変です。特に、「コロナ」蔓延で、窓口に厚い透明の幕が下がり、さらに対応が表情・口の動きのわからないマスク越しで、難聴者は困っています。

対話が出来ない、会話が楽しめない、家にこもる、テレビをつけると「音が大き過ぎ」と言われ、こうしたことが続き、人づきあいが減り、次第に「脳が『お休み』しがち」になり、認知症につながっていきかねない、ということが研究発表され、厚労省も放っておけなくなってきました。

そこで高齢者が「補聴器を」と思っても、片耳で〇十万、両耳で◎十万となると、「メガネより小さいのに、そんなに！」と、変な比較をしてしまいます。年金額を考えたら、尚更です。

この高齢難聴者の悩みに少しでもと、百を超える自治体が「購入補助 (助成)」をし始めました。

柏市でも難聴の問題を「3月の耳の日 (33)」に合わせて「広報かしわ」で特集しようとして動いてくれることになりました。実態や補聴器問題、さらにヒアリング・ループ (会場にセットされると、専用補聴器で話し手の内容がびっくりするほどよく聞き取れ、中央公民館・アミュゼ柏に入り始めました) のことなど、わかりやすくまとめてくれることを願っています。

2023 年 1 月

(市内在住 難聴 K)